

無明の井  
我は生き人か、死に人か

のうしおとこ  
脳死男

藤本 重廣

あこぶじょう  
阿古父尉

藤田 修三

小塩  
夢か現か昔の淡い恋物語

葵上  
魂の慟哭・恨みの美学

はんによ  
般若

西村 金吾

あかはんにゃ  
赤般若

笹本 榮

道成寺  
情念の化身・蛇女の哀しみ

やせおとこ  
瘦男

大野 民夫

通小町  
九十九夜・恋の苦悩と成就



\*画像・イラスト等の保存・転載・無断利用はお断り致します\*

平成 28 年 10 月 21 日～ 10 月 25 日

# 広尾方式能面研究会作品展

今週の展覧会は広尾方式能面研究会作品展が開催されました。この作品展は二年に一度開催され、故広尾次朗市氏が考案した制作方法をベースに道具の開発や研究をなされているメンバーが集まり制作されています。会場には四十七点の能面が出品され、そのうちの十八点は九つの物語に登場するシテ（前シテ・物語の前半の主人公・後ツレ・物語後半の主人公）とツレが展示されました。能面は、物語の登場人物をモチーフに制作されています。会場では、物語が書かれた冊子が配布され、シテやツレがどのような心境で、憂いをふくんだ表情や怒りを露わにする表情をしているかなど奥に隠された様々な感情を読み解く事が出来ます。また、展示されている面は、『古色付け』という能面特有の加工がなされています。これは、舞台での使用の際、光りなどの照りなどを防ぐ効果もあり、伝統の技法として使用されています。

能面と偏に挙げますと、女性の面を思い浮かべやすいかと思えます。能面の大まかな分類としては、老人面、女面、鬼神面、霊面とあり、種類としては七十種もあり細かな分類では二百種ほどあるそうです。その中でも有名で印象に残る般若の面は、霊面に分類されており物語の中で女性が嫉みや恨みなどで鬼になった様子を彫られているのです。（諸説様々ありますが、角は女性の嫉妬の心を表現したものと考えられており、「角隠し」とは女性が結婚の際に嫉妬の心を隠す意味があると言われています。）女性を題材にした演目が多いのは喜怒哀楽といった感情を表現する事が出来るからかもしれません。